

国立病院機構熊本医療センター

No.236



# くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 平成28年度 第2回 開放型病院連絡会開催が迫りました

平成28年度第2回（通算42回）国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会を、来る2月25日（土）午後6時30分より、当院地域医療研修センターホールにて開催致します。

今回は、症例提示、地域医療連携室・紹介予約センターからのお知らせに続き、厚生労働省大臣官房審議官 椎葉茂樹先生の特別講演「地域医療構想と地域包

括ケア」を行います。

先生方をはじめ、看護部門、メディカルスタッフ部門、MSW、事務職員など多くの皆さまにご参加いただきますようお願い申し上げます。なお、新規登録医の受付も当日、会場でできます。ご希望の先生は会場受付でお申し付けください。

（管理課長 清水就人）

### 第42回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会

日時：平成29年2月25日（土）午後6時30分

場所：国立病院機構熊本医療センター（2階 地域医療研修センター）

#### － 内 容 －

#### （1）開放型病院連絡会総会

##### 1. 症例提示

##### ①「歯科・口腔外科と医科との連携について」

歯科・口腔外科部長

中島 健

##### ②「総合診療科の紹介」

総合診療科医長

辻 隆宏

##### 2. 地域医療連携室からのお知らせ

地域医療連携室長

清川哲志

##### 3. 紹介予約センターからのお知らせ

地域医療連携副室長

大塚忠弘

#### （2）特別講演

「地域医療構想と地域包括ケア」

厚生労働省大臣官房審議官

椎葉茂樹 先生

【連絡先】国立病院機構熊本医療センター管理課 電話 096-353-6501内線5690（清水・今村）

#### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

#### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

#### 患者様の権利

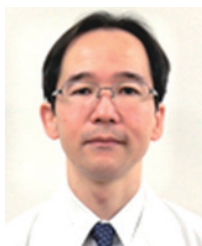
1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「菊池だより」

菊池郡市医師会立病院

院長 豊永 哲至



当院は昭和40年に創立された、九州で2番目、熊本では最も歴史のある医師会立病院です。平成24年には、菊池温泉街にあった旧病院から国道387号線沿いの田園地帯に建つ5階建ての新病院に移転しました。新病院からの眺望は素晴らしく、3階にある遊歩道庭園から眺めると東には鞍岳や阿蘇、西には遠く雲仙をも見渡すことができます。冬には七城町の河川敷から気球が飛ぶことがあり、初めてみた時は熊本でも気球が見られるのに驚きました。病床数は124床で、総合内科・糖尿病内科・腎臓内科・循環器内科・消化器内科・放射線科・リハビリテーショ

ン科などの主に内科系の診療と健診部門による予防医療を提供している地域の中核病院です。

菊池郡市は当院がある菊池市（旧菊池市、旧泗水町、旧旭志村、旧七城町）・合志市（旧西合志町、旧合志町）・菊陽町・大津町の2市2町から構成されており、企業進出や熊本市のベッドタウンとして発展していることから熊本県下の医療圏で人口が唯一増加しています。しかし、熊本市医療圏へのアクセスが良好なため、その自圏域における入院完結率は約55%、外来完結率は約70%と低いのが現状です。当院でも、重篤な救急疾患や高度医療が必要な疾患は、熊本医療センターにお願いしていますが、いつも快く受け入れて頂き大変感謝しております。

国は医療・介護の提供体制の改革を進めています。当院でもこれに対応して、2016年11月から介護療養病床を減らし一般病床と地域包括病床を増やすことで入院病床の機能変更を行いました。また菊池郡市医師会では、地域で患者をサポートするシステムとして「きくちみんなの在宅ネットワーク」を構築しており、当院は後方支援病院として参加しています。熊本医療センターで急性期の治療が終了した菊池地域の患者のその後の受け入れ先としてこれからも役割を果たしていきたいと考えています。

色々とストレスの多い医療業界ですが、息抜きのため皆さんも室町時代からの菊池一族に由来する多くの史跡があり、名湯菊池温泉美肌の湯と、美味しい食材（お米、牛肉、メロン）に恵まれた菊池に遊びに来ませんか？

## 第22回国立病院機構熊本医療センター医学会が開催されました

去る1月14日に第22回国立病院機構熊本医療センター医学会が開催され、症例報告・臨床研究報告など39題の演題が発表されました。発表の内容をみると、診療部の先進的な発表に加え、メディカルスタッフの部門でも優れた発表が多かったと感じました。医療秘書部門からは、救急外来の医療秘書が救急車で搬送された患者の検査表業務の補助を行ったことにより、医師の業務時間が大幅に短縮したことが発表されました。



座長をお引き受けいただいた、松本孝嗣先生（左）と田淵博先生（右）



医学会会場の様子

院外からは、佐藤医院の岡本有紀子先生が腹部エコーで肝臓の動静脈瘤を発見し、オスラー病の診断に結び付けた症例を報告していただきました。鋭い臨床の観察眼が稀な難病の迅速な診断を導き出した貴重な研究報告であったと思います。最後に、松本外科内科医院の松本孝嗣先生としまさきバス通り総合内科クリニックの田淵博先生には、お忙しい中座長をお引き受けいただき、活発な討議をお導きいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

（臨床研究部長 芳賀克夫）

# 病院増改修整備工事について

病院増改修整備工事	
① 現場事務所、仮設棟仕切工事	28年12月 Step 0
② 仮設工事(仮設所舎 仮設駐車場) (売店・食堂の仮設棟への移設)	29年1月～29年4月 Step 1
③ 売店・食堂、宿泊棟解体	29年4月～29年8月 Step 2
④ 増築棟新築工事	29年9月～30年11月 Step 3
⑤ 外装補修工事(仮設外装等)	30年12月～31年8月 Step 4

## 病院増改修整備工事スケジュールについてのお知らせ



午前からいよいよ、「病院増改修整備工事」が本格的にスタートしますので、スケジュールをお知らせします。  
 工事期間中はご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。  
 Step2：(仮設建物解体)、Step3：(増築建物新築)時には、現場事務所・資材置き場等のスペースが、拡張します。加えて、院外敷路側の入口からは一方通行となります。



平成29年1月より「病院増改修整備工事」の準備工事が始まりました。工事は、大きく左上記の内容で行われ、① (Step 0) については、平成28年12月にほぼ完了しました。1月以降、② (Step 2) の工事 (仮設棟建築等) を順次進めてまいります。仮設棟の完成は平成29年4月を予定しています。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を何卒宜しくお願い致します。  
 (業務班長 朝重久緒)

# 平成28年度合同慰霊祭が行われました

12月19日(月)、平成28年度合同慰霊祭が地域医療研修センターで執り行われました。本年は、平成27年9月から平成28年8月までの1年間に当院でお亡くなりになられた患者様690柱が対象で、多くの病院職員の方々に参列を頂きました。

式典は午後2時から始まり、河野院長による追悼の辞では、「私共は、この厳粛なる事実を銘記し、医学の進展に遅れることなく日々研鑽を重ね、更なる医療の向上と安全確保に努める覚悟です。」との言葉がありました。

その後、お亡くなりになられた故人に哀悼の意を表し、式典に参列した職員全員による献花が粛々に行われ、式典は終了いたしました。

また、参列した職員だけでなく、式典終了後も病院職員が献花できるように午後4時30分まで祭壇はその



合同慰霊祭の様子

ままとし、多くの職員の方々に献花を頂きました。最後に、この合同慰霊祭に参列頂きました全ての職員の方々のご協力により、滞りなく終了できましたことに厚く御礼申し上げます。

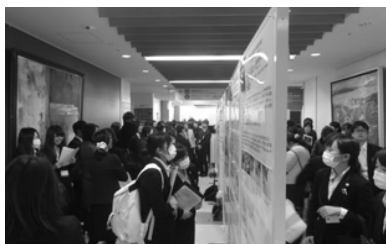
(経営企画室長 石井竜男)

## 第14回 国立病院看護研究学会学術集会在開催されました

平成28年12月17日（土）第14回国立病院看護研究学会学術集会在開催いたしました。

平成27年の3月に学会長のご指名を受け、6月に学会事務局を立ち上げ準備をしてきました。その後、熊本地震で予定しておりました市民会館が使用できなくなり、一時は学会の開催が危ぶまれました。会場変更にも困難を来しましたが、地震の1か月後に院内で開催すると決断いたしました。演題登録も多く、査読の結果、口演発表40題、ポスター発表87題となりました。また、529名の方に事前登録をしていただき当日参加221名、学会運営スタッフ143名の合計893名の方の出席となりました。

特別講演では、看護必要度の第一人者でいらっしゃいます、筒井孝子先生に2025年問題を見越した「地域包括ケアにおける看護師の役割」と題してご講演を頂きました。これからの日本の医療を先読みされている内容で大変好評でした。また、教育講演では森田敏子先生から心を揺さぶられるような看護倫理のご講演を頂きました。



病院正面玄関の立て看板とポスター会場の様子



くまモンと記念撮影

また、ベストポスター賞10題の中3題（看護部1、学校2）が当院から選ばれました。

第14回は記憶に残る学会にしたいと考え、二つのスペシャルを準備いたしました。一つは、コングレスバックを熊本バージョンとし「くまモン」入りのデニムのバックを作成いたしました。もう一つは、熊本県のスペシャルゲストとして、『くまモン』に出場を依頼したことです。アカデミックな学会ですが、全国から参加者された皆様は、子どものような表情をされ楽しんでいました。

全国学会をお引き受けしたときは、重責に押しつぶされそうでしたが、病院のご支援もあり成功裏に終わることができました。学会開催を通じて熊本医療センターの底力を感じました。皆様に感謝です。

（看護部長 佐伯悦子）

国立病院看護研究学会は2004年、国立病院が独立行政法人に移行する年に設立された学会です。国立病院に勤務する看護職を中心に、現在3000人程の会員で運営され、毎年、学術集会在開催されています。

## 春海保険大学から病院見学に来院されました

さる12月15日、春海（チュネ）保険大学・応急救助学科の学生が病院見学に来院されました。春海保険大学は韓国にある医療系技術者養成大学で、応急救助学科は日本の救急救命士にあたる国家資格を取得するための学科です。今回見学に来られた学生は1年生でした。私より日本の救急システムについてご説明したのちに、ワークステーションで当院に詰めていた救急車や、救急外来、ヘリポートなどを見学していた



救命救急センターを見学される様子



救急車の前で記念撮影

できました。日本の救急車には特に興味を示されて、帰る時間も忘れてずっと救急車を見入って、ワークステーションの救急救命士にも熱心に質問されていたのがとても印象的でした。学生のころから海外を見学し、広い視野を身に着けるような教育を受けられることを、とてもうらやましく思いました。立派な救急隊員になってくれることを祈念しております。

（教育研修科長 原田正公）

# 職場紹介

## 中央材料室



### 作業風景

主な作業は、洗浄→組み立て→滅菌の順番で行われます。



①洗浄作業



②組み立て作業



③滅菌作業

中央材料室は、医療材料の洗浄・滅菌を行い、安全で安心して使用できる物品を提供し院内感染防止に努めることを目的としています。看護師長1名と滅菌管理士等の中材業務に関する有資格者を含む委託業務職員14名で平日の8:30~21:30まで交代制勤務を行っています。

病院機能評価で、S評価を受けたことを励みに、更なる業務の改善と質の確保に努めています。今年、OP-Tek（委託業務職員による手術室補助業務）が導入され、手術室との連携をより強化しています。各部署の要望にも丁寧な対応をさせていただきますので、今後ともよろしくご依頼致します。

（看護師長 川内サユリ）



当院では本年5月31日から敷地内完全禁煙となります。これに先駆けて、周術期患者さんに対して手術決定時からの禁煙を徹底していくこととなりました。紹介元の先生方に周知していただき、より早い段階から介入出来れば理想的です。また、希望される患者さんには禁煙外来開設施設への紹介も必要となってきます。先生方と連携を図りながら、患者さんがより良い状態で手術に臨み、合併症をできる限り減らし、早期に社会復帰していただくため、御協力をお願いいたします。

（麻酔科医長 古庄千代）

# 手術前には、まず

# 禁煙

- ✓ point1  
喫煙は手術の合併症を増やし、傷の治りも悪くします。
- ✓ point2  
禁煙はいつから始めても合併症を減らす効果があり、早いほど有効です。
- ✓ point3  
禁煙は手術後も継続することで、病気の経過を改善します。
- ✓ point4  
受動喫煙も手術経過に有害です。家族が手術なら禁煙しましょう。

公益社団法人 日本麻酔科学会  
YEG-0047 神戸市中央区舞鶴町1-5-2 神戸マリアンセンタービル3F

# 熊病の歴史

## 看護学校

独立行政法人国立病院機構熊本医療センター附属看護学校は、熊本市のほぼ中心、熊本城の一廓に位置し、緑豊かな木々に包まれ学習に最適な環境にあります。平成21年に看護基礎教育の教育課程が改正され、豊富な専門知識と臨床経験を有する院内外の講師陣によって最新の医療・看護・福祉に関する授業や演習が展開されています。また、教育課程の3分の1をしめる臨床実習は、急性期医療に全力を挙げ、365日、24時間どんな患者さんでも救急医療を断らないをモットーとし、地域医療連携の一翼を担う熊本医療センターを主として独立行政法人国立病院機構グループの菊池病院や熊本再春荘病院、長崎医療センターで質の高い臨床看護実践能力を育成しています。さらに、福田病院や子ども文化会館、幼稚園、訪問看護ステーションやささえりあ、介護施設なども実習施設です。昨年からは熊本市広域防災センターや熊本北署の協力を得ながら災害看護や安全防犯対策も実施しています。

平成28年3月に第67期生が卒業し、卒業生数は2,600名をこえました。平成28年4月には、熊本県知事代理や熊本県看護協会長、院外講師、同窓会長、新町を中心とした地域住民の皆様、病院職員の総勢60名に温かく見守れながら第70期生45名が入学いたしました。この記念すべき創立70周年に、なんと卒業生の活躍がクローズアップされました。平成28年5月16日NHKプロフェッショナル仕事の流儀「食べるよろこびを、あきらめない」に第29期生小山珠美さんが出演されました。小山珠美さんは平成28年熊本地震の際もいち早く現場に駆けつけ、自衛隊の炊き出しでお粥を炊いてもらい、「ひと匙食べるよろこび」を避難した高齢者や障害者にプロフェッショナルな支援をなさいました。こういった先輩方のご活躍が在校生にとっても誇りです。



小山珠美氏  
(卒業生29期生)

さて、本校の歴史について昭和19年に遡ってご説明いたします。永久保管の学院沿革史によると、昭和20年12月1日、時の熊本第1陸軍病院は終戦に依り、軍解消直に其の経営施設全部を厚生省に移管せられ国立熊本病院と改称せられました。陸軍看護師養成機関として既に第1期生は卒業し、義務生と称して病棟に勤務しておられました。当時の第1期生から第3期生は旧制度の卒業生です。昭和21年3月14日国立熊本病院附属看護婦養成所(熊本県告示第87号、熊本県知事永井浩)として設置が認可され、5月15日には第3期生10名が入学されました。設立当初の生徒数は、義務生26名を含む52名でした。当時の看護婦養成は医学モデルによって実施されていたので、看護婦養成所長



在校生120名および職員の集合写真

は元陸軍中佐の小島武夫先生、教務主任は元軍医少佐・教育隊長の重信武光先生、係婦長は元陸軍看護婦長吉田カヨ子先生によって養成所がスタートいたしました。昭和21年11月4日厚生省官制の改正に伴い病院は医政局管下から厚生省の所管となり、本校は、翌昭和22年、新制度による専門教育機関(甲種看護婦養成所)として第1期生20名の入学式を挙行いたしました。当時の養成所長は山田政信先生、教務主任は佐々木光義先生、係婦長は濱田マスエ先生、吉田カヨ子先生、伊佐マル先生でした。創立70周年というのはこの新制度によるものです。その後、昭和23年国立熊本病院附属高等看護学院と改称し、其迄は医師が教務主任を務めておられましたが、教務主任に厚生技官である濱田マスエ先生が着任なさいました。当時の看護婦養成所は軍政官ミス・バーガーやミス・オスタードルによる数回にわたる視察指導によって高等専門としての教育が整備なされたようです。昭和25年総監督兼教務主任の濱田マスエ先生は兼職を解かれ、専任教員の伊佐マル先生が教務主任に命ぜられました。伊佐マル先生は、その後の看護教育発展の功績が認められナイチンゲール褒章を受けられました。学校応接室にその褒章は大切に飾られています。昭和26年本省医務局金子光看護課長が視察指導におみえになっています。看護界で金子先生を知らないのは潜りです。金子先生は、エール大学での留学を終えられまして、勤務をされていた厚生省にお戻りになり昭和25(1950)年に看護課長になられた方ですが、看護婦や助産婦のことは医務局の医務課が担当していて、看護婦の養成所がいくつあるとか、何人ぐらい免許取得者がいるということは国が持っているデータがなかった頃、GHQのG・E・オルト女史(陸軍少佐/GHQ看護課長)とともに日本に近代看護の礎を築かれた方です。丁度、昭和25年第1回看護婦国家試験が施行され、当学院卒業生12名が受験し、全員合格なさっておられます。昭和30年、教務主任伊佐マル先生の関東信越医務出張所所長により、新たに細野セイ先生が教務主任に着任なさいました。細野先生は、その後昭和41年まで教務主任を務められ、山下涼枝先生に引き継がれました。本校の教育理念である「自主」「責任秩序」「融和は」、岸野敦子先生、松田歌

子先生、山下和子先生、北川多恵子先生、川村優美子先生、吉野美保子先生、安浪小夜子先生、前中由美先生、岸田佐智子先生、現職の荒川直子と引き継いでおります。

昭和50年4月2日厚生省組織規定の一部改正により、国立病院、国立療養所附属看護婦養成の名称変更がなされ、本校は国立熊本病院附属看護学校となりました。同時に、教務主任を教育主事に名称変更されました。続いて昭和51年4月1日より学校教育法第82条の2に規定する専修学校となり、本学校に看護専門課程看護学科を置きました。平成16年4月、母体施設の独立行政法人化により、独立行政法人国立病院機構熊本医療センター附属看護学校に改称しました。そして10月新校舎が竣工しました。

平成28年度は創立70周年の年でした。16期生の増永勢津子同窓会会長をはじめ同窓生の方々と「創立70周年記念行事」の準備を始めていたところ、平成28年4月14日・16日の熊本地震にみまわれました。被災されたすべての方々の状況を考え記念行事の延期を決定いたしました。しかし、多くの卒業生や周囲の皆さまからの温かい励ましの中、創立70周年という節目だからこそ未来に向けた看護を語り合おうということで10月17日に「創立70周年記念講演会」を開催いたしました。

この記念講演会を取り仕切ったのは、在校生である学生自治会でした。きっかけは、震災後の6月2日、前半でご紹介いたしました卒業生（29期性）小山珠美先生との出会いです。小山先生は、記念講演の講師であり、NPO口から食べる幸せを守る会理事長としてご活躍です。また、JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院看護師として臨床実践家として後輩の育成にも尽力されています。その小山先生が熊本地震の余震も続く中、来熊され被災地への訪問・支援のあい間をぬって、母校である本校へ来校してくださいました。そこで、学生は今の自分たちと同じ小山先生の看護学生の頃の経験を聴くことができました。看護学生であった小山先生は、障害があって経口摂取ができない患者に何とかして食べさせてあげたいが出来なかったこと、患者の死を前にしてただただ悲しくて涙したことなどいろんなことを語ってくださいました。そして、小山先生がこの看護学校の理念に基づいた教育が今の自分の原点であり、それを誇りとしているということを知ることができました。そこで、私たち在校生が本校の教を大切に、「未来へつなげていかなければ！」という思いと創立70周年に在籍できていることへの喜びと誇りを胸に全学生が団結いたしました。

講演会では、まず、学生が地域活動で代々受け継いでいる「よさこい節、ソーラン節」をお揃いの法被を着て披露いたしました。この法被は、学生の保護者である



おそろいの法被による舞踊披露

後援会より贈呈していただいたものです。鮮やかなオレンジの法被に思い出深い银杏城（熊本城）ゆかりのいちごの葉を基本に熊本医療センターの頭文字「K」がモデリング



後援会からの寄贈の法被

された校章があしらわれています。その法被を身にまとった学生たちが会場全体に響く掛け声で舞踊を披露し、その迫力に参加者全員が心震える思いをしました。そして、講演は「私のナーシングマインド～あきらめず乗り越える強さ～」というテーマで始まり、人間が生きている限り「口から食べる」ということを諦めず支援し続ける信念を語っていただきました。会場には同窓生や病院職員、地域の医療関係者等が参加して下さいました。人間にとって大切なこと、基本的なことがいかにその人の幸せに影響していくかを改めて感じることができ新たな気持ちで患者を支えていこうという原動力になりました。また、在校生は、自分たちが臨床現場にたったとき、患者の「食べる」という可能性を引き延ばし希望を与えられる存在となれるよう、日々の努力を怠らずに成長していくことを決意することができました。最後は、参加者全員で学生の生演奏による校歌斉唱で締めくくり幕を閉じました。さて、今回の記念講演会、場所はくまびょう（熊本医療センター）の地域医療研修センターで開催されました。その場所は、約10年前、旧校舎と寄宿舍があった所です。時代が変化しても同じ場所で本校の理念「自主・責任秩序・融和」の精神で学んだ教育を誇りに卒業生・在校生が看護の可能性を語り合えることに感謝しつつ、熊本医療センター附属看護学校の歴史・絆が永遠に続くものであることを信じています。

最後になりますが、本校70周年における歴史を紡がれた歴代学校長のお名前をご紹介します。初代学校長は小島武夫先生、その後山田政信先生、小林節昭先生、渡辺桂吉先生、蟻田功先生、宮崎久義先生、池井聰先生、河野文夫先生です。

（教育主事 荒川直子）



初代看護学校



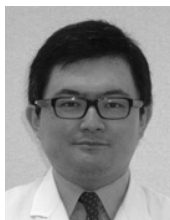
旧看護学校



現在の看護学校

## 最近のトピックス

## 疥癬 (かいせん)



皮膚科医長

牧野 公治

疥癬は、皮膚の角質層に寄生するヒゼンダニ（疥癬虫）の感染で発症する皮膚疾患です。主に肌と肌の直接接触で感染しますが、介護者や寝具を介しても感染します。

以前は安全性は高いが効果が弱い又は効果は高いが安全性が低い外用剤しか治療薬がなく、治療は煩雑でした。しかし大村智博士らが発見・実用化しノーベル賞を受賞したことで有名な「イベルメクチン」の内服が保険適応されてからは安全で有効な治療が簡便に行えるようになりました。さらに最近、有効性と安全性を両立した外用薬「フェノトリンローション」が保険適応となりました。爪の病変など外用療法が必要な病型があり今だ外用薬は不可欠です。そしてフェノトリンはシラミ駆除薬として小児での使用経験が多く、小児や妊婦に対する使用の適応拡大も期待されています。

疥癬は、虫体ないし排泄物等に対するアレルギー反応から生じる皮膚病変と掻痒が主体です。いわばヒゼンダニにかぶれた状態に近く慢性湿疹と見分けにくいところに落とし穴があります。結果としてステロイドの内服・外用が漫然と続き、重症型である角化型疥癬へ移行したり、周囲の方にヒゼンダニが感染したりすることも少なくありません。

そのため疥癬かもしれないと常に考えながら疥癬に特徴的な症状を見つけることが大事です。手をよく見

て下さい、指間の線状鱗屑「疥癬トンネル（図左）」や手掌のY字型鱗屑「水尾徴候（図右）」が疥癬患者の多くに認める皮疹です。腋窩や陰部も見て下さい、小結節は（陽性率は低いものの）疥癬に特異的で診断に役立ちます。最終的には皮膚科医にて鱗屑を剪除して鏡検しヒゼンダニの虫体や卵等を確認して確定診断となります。同じく皮膚科医の目でダーモスコープという拡大鏡を用いて全身の皮疹をくまなく調べ虫体を検出する方法も、保険適応外ですが痛みがなく注目されている診断法です。

治療は簡便になりましたがヒゼンダニの薬剤耐性化は要注意です。フェノトリンは長くシラミ駆除に使われたためフェノトリン耐性のシラミが増えました。薬剤の不適切使用はヒゼンダニの薬剤耐性を助長します。抗菌薬同様、安易な投与は戒めねばなりません。

皮膚疾患の早期解決にはかかりつけ先生方との連携が不可欠です。皮膚についてお気づきの点がございましたら大小を問わず、まず身近な皮膚科への受診をお勧め下さい。皮膚科をお探しの際は以下のホームページをご利用下さい。

公益財団法人日本皮膚科学会：

<https://www.dermatol.or.jp/>

熊本皮膚科医会：<http://www.k-hifukaikai.org/>

熊本大学大学院生命科学研究部皮膚病態治療再建学分野：

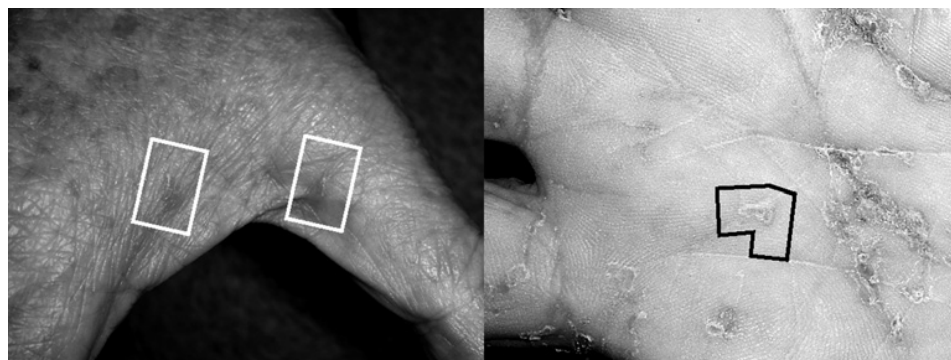
[http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/derm\\_plas/](http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/derm_plas/)

（参考文献）

牧野公治ほか：フェノトリンローションを用いて治療した2～3歳児の通常疥癬5例,西日本皮膚科,2017:79: in press.

石井則久ほか:疥癬診療ガイドライン（第3版）,日本皮膚科学会雑誌,2015:121:2023-2048.

谷口裕子:疥癬の治療はどのようにするか:和田康夫:疥癬ハンドブック.東京,アトムス:2007:69-83.





いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

## シリーズ111回

### 急性期A病院中間管理者の倫理的視点と課題 ～中間管理者の看護倫理に関するアンケート結果から～

外来看護師長 沖田典子

【目的】A病院中間管理者の看護倫理に関するアンケート調査から、現時点での臨床現場の倫理的視点を明らかにします。

#### 【研究方法】

1. 調査期間：平成26年9月27日～10月10日
2. 対象：A病院看護師長17名、副看護師長32名計49名
3. 調査方法
- 1) ①看護実践場面での倫理的問題に関する体験内容  
②倫理的問題を解決する上で困難と感じていることについて自由記述。
- 2) 分析方法：①は「トンプソンらによる倫理問題を明確化するためのカテゴリー」を用いて分類。②はKJ法で分析。
4. 用語の定義

中間管理者:病院の看護部門において看護単位の中で患者へのケアなどの提供を総括している人で、本研究では、看護師長、副看護師長とします。

#### 【結果】

- 1) 調査表の配布数49名、回収数47名、回収率96%でした。
- 2) 看護実践場面での倫理的問題に関する体験は135件抽出されました。これを37の小項目に沿って分類すると〈個人の尊厳〉が28件と最も多い結果となりました。内容は身体抑制に関することが多く、〈個人の尊厳〉20件、〈善と害〉18件、〈正義と公正さ〉17件の合計55件で全体の40.7%を占めました。一方、日常生活援助の中に潜む倫理的問題は11件と少ない結果となりました。5つの大項目に沿って分類すると【A倫理原則に関する問題】が51件と多く、【Eライフスタイルに関する問題】はありませんでした。(表1)
- 3) 倫理的問題を解決する上で困難と感じていることは37件ありました。KJ法で分類した結果、《他者との関係性》9、《知識不足》7、《職場風土》7、

《カンファレンスのあり方》6、《カンファレンスに関する時間の設定》3、《教育》2、《技術不足》1、《体制》1、《倫理観の低さ》1の9つに分類されました。副看護師長は《他者との関係性》に多く、看護師長は《職場風土》《カンファレンスのあり方》に多く、看護師長と副看護師長では偏りがみられました。

#### 【考察】

- 1) 【C倫理的義務・責務に関する問題】の〈個人の尊厳〉で身体拘束に関する内容が多いことは、A病院が急性期医療を担う病院であり、積極的に治療する高齢者や重症度の高い患者を抱え、安全確保や適切な治療のため身体抑制をせざるを得ない現状があり、ジレンマを強く感じていることが明らかとなりました。身体抑制に関する問題が多く、他の倫理問題が少ないことから、倫理的視点の偏りも考えられました。
- 2) 《他者との関係性》が多かったことは、対立によって発生するネガティブな感情に関心が向かったと考ええます。また、困難と感じていることの記載に「倫理的問題を解決、問題視する風土がない」という記載と、設問に対する記載が少ないことから、問題に気づくことができていない現状が伺えました。

#### 【結論】

1. 看護実践場面で倫理上問題と思うことは、倫理原則に関する問題が最も多い結果でした。
2. 日常生活援助の中で倫理的問題を困難と感じていることは少なく、身体抑制に関することを問題として捉えています。
3. 中間管理者として、問題解決する行動力、ケアの倫理の視点から事例について語り合い理解を深める機会、コンフリクトマネジメント力を身につけることが今後の課題です。

表1. トンプソンらによる倫理問題を明確化するためのカテゴリーを用いての分類結果

大項目 (5項目)	小項目 (37項目)	数	数(*身体抑制に関する)
A: 倫理原則に関する問題	善と害 (善業の原則・無害の原則)	51	21 (*18)
	正義と公平さ		21 (*17)
	その他		9
B: 倫理的権利に関する問題	プライバシーの権利	21	12
	自分自身・自分の身体に起こる事柄を決める (自己決定)		5
	その他		4
C: 倫理的義務・責務に関する問題	個人の尊厳	33	28 (*20)
	専門職としての能力を維持すること		3
	その他		2
D: 倫理忠誠に関する問題	専門同士の関係	30	10
	医療者と患者の関係		8
	その他		12
E: ライフスタイルに関する問題		0	0
総数		135	135

## 研修医レポート

### 臨床研修医

ひぐち けんたろう  
樋口 賢太郎



こんにちは、研修医一年目の樋口賢太郎と申します。出身は福岡県久留米市で、大学は東北大学医学部を卒業し、昨年4月から熊本医療センターで初期研修をさせていただいております。熊本で生活するのは初めてで9ヶ月たった今でも行く場所、知ることすべて新鮮で日々充実しております。私は大学1年生のとき宮城で3.11を経験し、今回熊本地震も経験することとなりました。毎日熊本城を眺めるたびに、地震の爪痕はまだまだ大きく、時間がかかるなど感じています。

研修に関しては、4月の消化器内科から始まり、その後、救命救急部、呼吸器内科、糖尿病・内分泌科を

周り、今は消化器外科で研修をしております（12月現在）。

消化器内科では腹部超音波などの基本的な手技を取得し、11月には消化器病学会九州支部例会で症例発表を行う機会もいただきました。初めての学会発表で緊張しましたが、自分が実際に経験した症例を発表し、様々な先生と質疑応答することができ、本当に貴重な経験でした。

呼吸器内科では細菌性肺炎やCOPDなどのcommon diseaseから間質性肺炎や肺癌まで幅広い呼吸器疾患を経験しました。胸腔穿刺、挿管、中心静脈確保などの手技も経験し、一人前の医師になるためにこれらの手技を確実にこなせるようにならねばと強く感じました。

外科を含めいろいろな科を回っていると、救急外来の初期対応から退院まで一人の患者さんを通して見る機会が多く、医師としての責任、やりがいを感じながら、もっともっと精進しなければと感じています。これからも先生方やスタッフの皆さんから学ぶことばかりですが、どうぞご指導の程よろしく願いいたします。

### 臨床研修医

くまもと だいち  
隈本 大智



皆さんこんにちは。研修医1年目の隈本大智と申します。熊本大学を卒業し、熊本医療センターで研修医として学ばせて頂いています。苗字から熊本県出身だと思われることが多いですが、私は福岡出身でして熊本にきて早7年目になりました。そろそろ方言も博多弁から熊本弁に変わってくるころでしょうか。

さて皆さんご存知の通り、4月に熊本で未曾有の大地震が発生しました。その日私は当直実習で、初めて救急車の初期対応を行い、指導医に報告を行なってる最中であったことを今でも鮮明に覚えています。様々な職員の方が俊敏に行動するなか、自分は診療どころか薬剤や医療道具の場所もまだ分かりませんでした。自分にも出来ることを探して僅かでも力になれるよう

行動しておりました。現在では地震の影響もほとんど感じられず、多くの指導医の方々にご指導をして頂きながら、充実した研修を行っております。研修中様々な患者様を担当させて頂いていますが、その中でも最も心に残っている患者様がいます。治療に関しては専門性が高い疾患で密には関わられませんでした。それ以外で何か出来ないかと思いつき、2人で毎日のように大好きな野球の話をしていました。少しでも長く辛いことを忘れられる時間を過ごせればと思っていたのですが、残念ながらその人は亡くなってしまいました。しかし亡くなった後に奥様から、「先生と毎日野球の話をするのが今の唯一の楽しみだと言ってました。ありがとうございました。」とのお言葉を頂きました。辛さと嬉しさが入り混じった言葉には表し難い感情を抱きました。医学の勉強は勿論ですが、このような人と人との繋がりや想いも大切にして、初心を忘れずこれからも精進していきたいと思っております。まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

# 研修のご案内

## 第69回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年2月11日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：ひらきクリニック副院長

大柿 悟 先生

演題：「糖尿病治療の最前線」

1. 軽症糖尿病への対応—生活習慣改善の意義

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長

西川武志

2. 糖尿病経口治療薬の最前線

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長

小野恵子

3. 最新インスリン療法

菊池郡市医師会立病院 院長

豊永哲至 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

## 第185回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成29年2月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「低血糖脳症の治療と課題」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

矢野雄久

2. 「糖尿病に合併した高中性脂血症をどのように考えるか？」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長

西川武志

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5441

## 第216回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成29年2月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います

「第1症例 循環器内科からの症例」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科

山田敏寛

「第2症例 著明な小球性貧血の一例」

国立病院機構熊本医療センター血液内科医長

河北敏郎

2. ミニレクチャー「腰痛：化膿性椎間板炎について」

国立病院機構熊本医療センター統括診療部長

清川哲志

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

## 第151回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成29年2月22日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「形成外科・皮膚科救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター形成外科部長

大島秀男

国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長

牧野公治

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

2017年

## 研修日程表

2月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

2月	研修センターホール	研 修 室
1日(水)		
2日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「精神科疾患」 国立病院機構熊本医療センター精神科医長 橋本 聡	
3日(金)		
4日(土)		
5日(日)		
6日(月)		
7日(火)		
8日(水)	18:00~19:00 特別講演 「抗菌薬の適正使用」 佐賀大学医学部附属病院感染制御部副部長 濱田洋平 先生	
9日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「小児の発熱と痙攣」 国立病院機構熊本医療センター小児科医長 森永信吾	
10日(金)		
11日(土)	15:00~17:30 第69回 症状・疾患別シリーズ 「糖尿病治療の最前線」 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座 長 ひらきクリニック副院長 大柿 悟 先生 1. 軽症糖尿病への対応 -生活習慣改善の意義 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川武志 2. 糖尿病経口治療薬の最前線 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長 小野恵子 3. 最新インスリン療法 菊池郡市医師会立病院院長 豊永哲至 先生	
12日(日)		
13日(月)		
14日(火)	18:00~19:00 第79回くすりの勉強会	
15日(水)		
16日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「適切な記録と紹介のための発疹学」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野公治 14:00~15:00 第47回 市民公開講座 「胆石症について」 国立病院機構熊本医療センター副院長 片渕 茂 20:00~21:30 第74回 医歯連携セミナー 「有病者における口腔外科手術 up-to-date -注意すべき検査値、薬剤などについて-」 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科医師 谷口広祐	19:00~20:45 第185回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
17日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「脂肪肝とアルコール性肝障害」
18日(土)		
19日(日)		
20日(月)		19:00~20:30 第216回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
21日(火)		
22日(水)	18:30~20:00 第151回 救急症例検討会 「形成外科・皮膚科救急疾患」	
23日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「整形外科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター整形外科医長 中馬東彦	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
24日(金)		
25日(土)		
26日(日)	8:30~17:00 熊本県臨床細胞学会学術集会・総会	
27日(月)		
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代)内線2630 096-353-3515(直通)